

2年次選択科目 日光医療センター消化器内科臨床研修プログラム

1. 研修施設

獨協医科大学日光医療センター

2. 研修期間

1か月～

3. 指導体制

指導責任者： 原 澤 寛 教授

主任指導医： 眞 島 雄 一

4. 研修内容

内科医、消化器病専門医として十分な知識・技能を備えた指導医によるマンツーマンの指導とともに、グループ単位で入院患者の診療に携わる。

患者および家族、コメディカルスタッフとのコミュニケーションを良好に保ち、モラルの高い診療が行えるよう研修する。

消化器疾患の病歴、身体所見を的確にとることができるよう研修する。

代表的な消化器疾患の病態生理を理解し、適切なアプローチと治療選択ができるよう研修する。

消化器領域の救急疾患に対する対処法を学ぶ。

全身状態の重篤な患者に対する呼吸・循環などの全身管理法を学ぶ。

主要な検査手技を見学・習得し、その結果に対する適切な判断を学ぶ。

消化器疾患の手術適応、術前評価を学ぶ。

ターミナルケアについて学ぶ。

カンファレンスにおいて症例を提示する能力を習得する。

各種カンファレンスにおいて、消化器外科、放射線科、病理医などとの討論に参加し、消化器疾患についての見識を深める。

5. 研修目標

基本的 診断・ 検査法	一般目標 (GIO)
	消化器領域における基本的診断・検査法を習得する
基本的 診断・ 検査法	到達目標 (SBO)
	血液検査一般、生化学検査、肝炎ウイルスマーカー、腫瘍マーカーなどの各種データの評価ができる
	OGTT、ICG、PFD 試験などの負荷試験を行える
	胸部・腹部 X 線検査 (単純、上部・下部消化管造影、胆道・膵管造影) の読影ができる
	内視鏡検査 (上部・下部消化管)、カプセル内視鏡検査の所見、手技の実践ができる
	腹腔穿刺が実施できる
	腹部を中心とした CT 検査、MRI 検査の読影ができる
腹部血管造影検査の読影ができる	
生検組織検査の所見が言える	

基本 的 治 療 法	一般目標 (GIO)
	消化器内科における基本的治療法を習得する
基本 的 治 療 法	到達目標 (SBO)
	生活指導、食事療法の説明ができる
	薬物療法の戦略を立てられる
	イレウス管挿入による減圧術ができる
	食道・胃静脈瘤に対する治療としての S-B チューブ挿入ができる、内視鏡的結紮術、内視鏡的硬化療法の適応が決められる
	消化管腫瘍に対するポリペクトミー、粘膜切除術の適応が言える
	消化管出血に対する内視鏡的止血術の助手ができる
	肝腫瘍に対する肝動脈塞栓療法の適応が決められる
	肝腫瘍に対するエタノール局注療法およびラジオ波焼灼療法の適応が言える
	内視鏡的乳頭切開術およびバルーン拡張術の適応が言える
	経皮経肝胆道ドレナージ、経鼻胆道ドレナージなどの減黄術の助手ができる
	総胆管結石砕石術の適応が決められる
	動注療法の適応が言える
	炎症性腸疾患に対する体外循環治療の適応が説明できる
	放射線療法の適応が決められる
	消化器疾患の手術適応の相談が出来る
劇症肝炎の治療戦略が説明できる	

6. 経験が望まれる症状

全身倦怠感	嚥下困難・障害
黄疸	食思不振
浮腫	便秘・下痢
腹痛	吐血・下血
悪心・嘔吐	腹部膨満・腫瘤

7. 経験が求められる疾患、病態

<p>食道炎、食道潰瘍 Mallory-Weiss 症候群 食道上皮性腫瘍（良性腫瘍、癌） 食道非上皮性腫瘍（粘膜下腫瘍、肉腫） Barrett 食道 食道憩室 食道裂孔ヘルニア アカラシア 食道・胃静脈瘤 急性胃炎 胃・十二指腸潰瘍 胃上皮性腫瘍（良性腫瘍、癌） 胃非上皮性腫瘍（粘膜下腫瘍、肉腫） 胃・十二指腸憩室 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病） 感染性腸疾患 虚血性腸炎 薬剤性腸炎 大腸上皮性腫瘍（良性腫瘍、癌） 大腸非上皮性腫瘍（粘膜下腫瘍、肉腫） 消化管ポリポーシス 消化管悪性リンパ腫、MALT リンパ腫</p>	<p>腸閉塞 急性肝炎、慢性肝炎 重症肝炎、劇症肝炎 肝硬変（肝性脳症、腹水） 原発性胆汁性肝硬変、自己免疫性肝炎 アルコール性肝障害、薬剤性肝障害 脂肪肝、代謝性疾患に伴う肝障害 良性肝腫瘍 原発性肝癌、転移性肝癌 肝膿瘍 特発性門脈圧亢進症 原発性硬化性胆管炎 胆石症（肝内、胆嚢内、総胆管） 胆嚢炎、胆管炎 胆嚢・胆管良性腫瘍、胆嚢腺筋症 胆嚢癌、胆管癌 急性膵炎、慢性膵炎 膵嚢胞 膵癌 腹膜炎</p>
---	--